

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/1階ユニット)

事業所番号	2772001604		
法人名	株式会社 住装		
事業所名	グループホームあびこやすらぎの里		
所在地	大阪府大阪市住吉区我孫子2-1-18		
自己評価作成日	令和5年3月24日	評価結果市町村受理日	令和5年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあびこやすらぎの里は、入居者様の身体機能低下予防に特に力を入れております。1日2回、体操の時間を設け、入居者様に積極的に参加していただくように促しながら、楽しく、気分転換できて体を動かすように努めております。(もちろん、体操の嫌いな入居者様や気分の乗らない入居者様、身体機能が過度に低下しており参加が困難な入居者様には無理強いはいたしません。)過去に施設等で機能訓練指導員として勤務していた職員が2名在籍しており、隣に鍼灸整骨院を併設している為、日常生活においても施設にいなが常に専門的な機能訓練が受けることが可能です。又、地下鉄、JRの最寄り駅から約6分と交通の利便性が良いにも関わらず周りは公営住宅に囲まれ交通量も少なく静かな住宅地にあり、春にはちょっとした桜の名所、コンビニ、ドラッグストア、スーパーも近所にあり、買い物、散歩には最適な環境にあります。入居をご検討をされてましたら、是非、ご連絡ください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人(株)住装は、高齢者住宅とグループホームあびこやすらぎの里を運営している。当グループホームは長居公園の近くにあり、マンションが立ち並び緑豊かな環境で最寄りの駅からも近く買い物に便利な位置にある。玄関入り口は季節の花が植えられ利用者・近隣住民に喜ばれている。利用者の健康とリハビリを兼ねて毎日2回食前に口腔体操を続け大きな声を出して身体能力の維持に努めている。法令遵守に基づくマニュアル(ハラスメント防止・認知症ケア・倫理等)が一ヶ所に整備され、介護に関する書籍もありいつでも自由に介護に関する力を身につけられるよう職員の向上を図っている。職員は、とても親切で気さくに話しかけて、アットホームな雰囲気でも忙しい時でもちゃんと対応してくれるなど家族アンケート結果からも家族から信頼を受けている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(3ユニット総合外部評価結果)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	最低年に1回、全体会議等で事業所理念を管理者、職員と共有し、施設理念の重要性、意味、理解について学ぶ機会を設けている。又、ケア等で迷いや個々のケアの相違等があれば、施設理念を振り返るようにしている。今後、ユニットにおける理念作成も検討している。	家庭的な雰囲気の中で皆様の人格を尊重し、その尊厳を守り「安心」「安全」「満足」をモットーに地域でご家族の皆様方の協力を得ながら質の高いサービスを目指しますを玄関先に掲げ、各ユニットにも掲示している。全体会議を通じて実践状況を振り返りケアの向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、地域との交流はほとんどできていない。運営推進会議、避難、防災訓練等で地域の方々に協力していただくように努めている。又、散歩等ですれ違った地域の方々には積極的に挨拶するように励んでいる。	自治会の総会に参加するなど積極的に近隣への挨拶や声掛けに努めている。近くの園児から七夕飾りの短冊を玄関に飾ってもらい利用者に喜ばれた。近隣の薬局からお化粧品クラブの設立の話があり地域との交流を深めたいと思っている。地域の家族から車椅子が必要になり貸して欲しいとの要望があり地域とのつながりを大切にしたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の独居高齢者や認知症高齢者の家族様に対して認知症に関する相談、認知症ケア等の助言を積極的に取り組んでいる。又、どのような施設なのか地域の方々に周知していただけるように努めている。認知症に限らず介護相談等の困りごとがあれば地域包括支援センターに相談するように勧めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、コロナ禍であり、施設の入居者数や施設サービスの状況、季節行事の取り組みを文書で紹介する。地域の方々や地域包括センターの主任介護支援専門員の方々から貴重な意見を頂戴し、サービス向上に活かしている。	会議は書面での報告をしていたが今回は運営推進会議を実施した。行事報告・利用者の近況報告・事故・ヒヤリハット報告書を行い構成メンバーから意見や要望を得てケアの向上に繋げている。会議議事録は構成メンバーと家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大阪市福祉局高齢者施策部介護保険課指定・指導グループに不明な点や施設運営において疑問点等を尋ねるようにしている。又、指導も受ける。区役所生活保護課のケースワーカーさんとの連絡や相談、問い合わせ等に対応できるように連携をとっている。	市の介護保険課の窓口や電話で事業所の現状を報告してアドバイスや指導を受けている。生活保護課の窓口とも手続きなど電話で対応している。グループホーム連絡会があるがコロナのために部屋の空き状況などの電話連絡を取っている。コロナ時は、府と市から抗原検査キッドやPCR検査などの支援を受けていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針の見直しを行い、会議、研修時に読み合わせを行い、常に身体拘束をしない支援を心がけている。身体拘束適正化委員を設け、身体拘束3原則を職員が理解し、職員同士が身体拘束について、意識を高くもっている。	身体拘束適正化指針文書を整え、委員会を開催し年2回の研修を実施して身体拘束をしない支援を心掛けている。「ちょっと待って」「危ない」などのスピーチロックにならないよう職員同士がケアに取り組んでいる。転倒防止のために2名の利用者がセンサーを使用しているが家族に説明を行い了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等でどのような行為が虐待に該当するのかを管理者、職員が学び、常に職員の言葉遣い等で違和感を感じた部分は職員同士で話し合う機会をもつようになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、研修等で学ぶ機会を設け、職員個々が理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には、重要事項説明書を丁寧に読み上げていき、随時、不明な点、疑問点等を尋ねながら、今まであった実例を話しながら、利用者様や家族様に不安がないように心がけ、理解、納得をいただけるような説明に努めている。その後、契約書にサインをいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご意見を尊重し、又、家族様には電話連絡時にご意見やご要望がないかを確認させていただいている。ご意見やご要望があった際には、管理者、職員で共有し、話し合い、それらを運営に反映できるように努めている。	家族からの電話連絡時や来訪時に要望や意見を聞くように心掛けている。利用者からは日頃の生活の中で様子を伺いながら管理者・職員で共有して運営に反映できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議、職員との会話の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それを共有し、運営に反映できるように努めている。	月1回のの全体会議や申し送り時にケアの中で、困った事など聞く機会がありそれを共有している。歌を歌うことが好きな利用者が多いとのことでカラオケ装置を設置した。写真を撮る機会がふえたのでデジカメを購入したり、職員からの要望に応え意見として反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の希望や能力「なにがやりたいのか」、「どのようにありたいのか」を把握、考慮し、職員の特性に応じた職場環境の提供、条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のケアに対する動きや対応力、コミュニケーション力、認知症介護の知識等、仕事の能力を把握し、法人内での研修、又、個々の希望により法人外の研修費の補助などスキルアップを図れるような取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの連絡会に登録し、研修、活動の際の参加費用などは施設が負担し、ネットワーク作りや情報共有、サービスの質の向上につながるような取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は入居日までに家族様から入居者様の様子、状態を把握し、又、入居者様から困っていること、不安なこと、要望等を尋ねながら、それを職員同士が共有し、入居者様に安心感をもっていただき、信頼関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が相談に来られた際には、家族様の悩みや葛藤、介護に対する心身の疲労を労い、共感し、入居にあたり家族様の困りごと、不安な点を尋ね、入居者様にどのような生活を望んでいるのかを記入していただき、家族様との信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様にそれぞれ面談をし、ご本人の状態や様子、意向、家族様から見てご本人の状態や様子、意向等を聞き取り、当施設で受入れが可能なのを見極め、判断するようにしている。受け入れが難しいようであれば、相談機関の紹介や他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様のできること、できない事を把握し、入居者様には日常生活でできることは自らしていただき、生活していく中で役割をもち、入居者様と職員が共に支え合う関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様をケアチームの一員として、日々の状態や様子等を情報共有し、最も関係性の深い家族様にしかできない唯一無二のケアの協力をお願いしている。家族様と共にご本人を支える関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話やコミュニケーション等で馴染みの人間関係や場所等を把握するように務め、本人の希望により馴染みの人には電話や手紙のサポートをしたり、外出時には馴染みの場所や建物を見に行ったりするような支援に務めている。	馴染みの人からの電話の取り次ぎや家族が毎日来られる方の継続支援に努めている。兄弟で外出・外食を楽しむ利用者がおり関係性維持に努めている。馴染みの店に出かけたり外食に出掛ける機会を作りたいと努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、フロアでの食事の座席等に配慮している。又、トランプやかるた等のレクリエーション時には入居者様が誘い合って参加している。皆とのレクリエーションに参加されない入居者様には個別で職員が声掛けしてやりたいことを提供するようにしている。又、掃除や食事後のかたづけ等、入居者様個々のできることを支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も何かあれば連絡を取り合えるような関係作りに努めている。又、必要に応じて、ご本人、家族様の相談や支援ができるような関係作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には入居者様の思いや暮らし方の希望、意向を尋ね、ケアプランに落とし込み、職員同士で共有している。意思表示が困難な入居者様には、日々のケアの中での反応や表情、ちょっとした言動にも着目し、職員同士で共有するように努めている。	契約時のアンケート調査の時に、入居者の暮らし方や要望を聞き取り、歌をうたうことが好きとかぬり絵の時の笑顔や、日々のコミュニケーションの中で反応や表情を大切に、職員同士共有して思いに添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には入居様個々の生活歴や日々の暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用経過、入居に至るまでの経緯をお尋ねし、把握し、職員同士で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の個々の一日の過ごし方、心身状態は職員が生活記録に記入し把握し、有する能力の把握はアセスメント、日々のケアの中で把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と介護職員で入居者様の状態を把握してモニタリングを行い、その結果によりケア会議を行い、新たな課題、目標を検討し、現状に即した介護計画を作成している。家族様には電話等で現状を把握していただき、ご意見をいただくように努めている。	医師と介護スタッフで家族・利用者の意見要望を聞き出してモニタリングを作成している。短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で検討している。利用者に変化があれば随時見直してその人にあった介護計画を作成している。	介護スタッフと家族・利用者の意見をとりいれているが睡眠時間・食事量・入浴などの聞き取りを密に行い、より多くの意見を取り入れて参加型の介護計画に取り組みたいとしている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録への記入は、日々の様子、出来事、ケアの実施内容だけではなく、入居者様の表情や発した言動等も記入し、その記録を職員同士で共有し、介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族様のニーズやちょっとした言動に耳を傾け、その時々に応じたニーズに対応できるよう、柔軟な支援ができるように努めている。その際は、報、連、相により職員同士で共有するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会のボランティア活動の受け入れ事業所として登録している。又、近所の方々との良好な関係を築き、家族様の協力も得ながら、フォーマル、インフォーマル問わず入居者様の暮らしを支える支援が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時にかかりつけ医への受診にするか、施設への訪問診療医に診ていただくのか、入居者様、家族様の希望を聞き、その希望に沿った医療機関に診ていただいている。以前に診ていただいていたかかりつけ医療機関には、診療情報を作成していただき、円滑で適切な医療が受けれるように支援している。	利用者全員が協力医療機関の訪問診療を月2回受けている。歯科も週1回全員が希望し、口腔ケアを受けている。他科受診の必要が生じた場合や、緊急時は職員が付き添い受診し、状況を家族に電話で報告している。週1回健康管理の為、看護師が訪問し24時間の医療連携が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携、協力病院の看護師さんが週に1回訪問され、介護職は日々の入居者様の身体状況や気づき、疑問等を伝えて相談し、個々の入居者様が適切な医療機関に受診できるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中であっても病院の看護師、相談員さんと連絡を密に取りながら入居者様の状態把握に努めている。退院時には、施設での生活に戻れるのか、相談員、看護師さんから入居者様の状態を詳しく把握(面談もあり)し、施設での生活での注意点、看護サマリーを提供していただき、安心して施設での生活ができるような環境を整えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設での支援の限界を説明し、理解していただき病状の重度化、終末期において医療処置が常時必要となった場合、入院、又は専門施設への転居があり得る事を承諾していただいている。又、その兆候がある場合は家族様に早急に連絡し、連携医療機関とも情報を共有できる体制をとっている。	入居契約時に「看取りケアをしない」こと、事業所では現在出来ないことを説明している。看取り指針は無い。重度化になった場合や終末期になり、自分で食事など食べれない、医療的処置の必要性があれば、病院の紹介や専門の施設と連携し、家族と話し合い移行している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを作成し、随時、追加、変更、訂正を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防・災害に対しての避難訓練を実施している。災害時の避難には地域の方々と連携をとり、協力体制を築いている。	基本的には週2回の入浴日で汚染時に等はシャワー浴を追加している。各ユニットに1人は入浴を嫌がる人がいるが朝から「お風呂」に入る気分を上手に声掛け・雰囲気盛り上げ浴槽に入ってもらっている。入浴剤や季節湯は行わず暖簾で雰囲気作り、見守り支援しながら日常会話・世間話を楽しみ、本音を聴ける場所でもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアをする前には入居者様にお尋ねし、同意を得たうえでケアを行うようにしている。入居者様の人格やご意見を尊重し、名前を呼ぶ際には苗字で呼ぶようにし、排泄介助の際にはプライバシーを損ねない様な配慮に努めている。	利用者の呼び方は名字で呼ぶ事に統一している。プライバシー保護や羞恥心の配慮の場面では排泄支援・入浴・更衣の支援・居室の出入りの声掛けなど留意し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者様に対して傾聴の姿勢で希望の表出や入居者様の自己決定ができるような声掛けをするように努めている。職員本位のケアにならないように職員同士で注意するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員一人一人がパーソンセンタードケアの理念を実践し、入居者様個々の暮らしを大事にし、事業所本位、職員本位にならないように職員同士で注意するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に持って来られた衣服の中で自分が着たい服を着ていただくようにしている。又、自分で着ることが困難な入居者様には職員とコミュニケーションをとり入居者様の意向に沿った身だしなみやおしゃれ等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手なメニューがあるときは、出来る限り対応し、工夫をしている。ごはんやおかずの量も要望に応じて個々に対応している。又、出来る限り、ご自身で食べていただくように努めている。食前食後のテーブル拭きや洗い物拭きなどは入居者様と職員と一緒に又は入居者様が率先してしてくださる時もある。	業者から食材と献立表が届き、専任の職員がフロアーのキッチンで調理している。行事食おせち料理・おひな祭りにちらし寿司など作っている。食事・おやつレクリエーションは月1回行い、お誕生日会はケーキ作りを利用者と一緒に行っている。廻る寿司を注文したり、コロナ禍前は裏庭でバーベキューを楽しんでいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食思にあまり関心のない入居者様には食事メニューや食材等を説明させていただき、なるべく食欲が湧くような働きかけをしている。食事量の少ない入居者様には、好みの物や医師に相談し栄養補給ができる補助食品を処方していただくなど工夫をし、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を各職員が理解し口腔内の汚れ、口臭の予防だけでなく誤嚥性肺炎の予防にも努めるようにしている。毎週、訪問歯科さんによるケア、治療に来ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄時間等を把握し、トイレへの排泄の声掛け、誘導を実践している。オムツの着用をできるだけ避け、日中はできる限りパンツを使用しトイレで排泄できるように支援している。	排泄チェックリストを活用し声掛け、日中は便座使用を基本としている。介護度高い人も昼間はリハビリパンツとパットの併用で夜間はオムツに変更している。2～3時間毎トイレに誘導の利用者もいる。安眠を重視して巡視とは排泄の個別支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食は牛乳と野菜、ヨーグルト等を提供し、便通がよくなるように支援している。又、日常生活での運動、体操を促し、トイレで前傾姿勢の姿勢が困難な入居者様には、便の出やすい姿勢ができるような体操、運動を介助しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様個々の希望やタイミングを把握し、入浴前には声掛けをして了承して入浴していただいている。声掛けをしてタイミング等が合わず入浴の了承を得られない入居者様には時間を変えたり、異なるスタッフが声掛けをして入居者様の了承を得、入居者様の意思を尊重するように支援している。	入浴は週2回を基本的とし汚染時にシャワー浴を追加している。嫌がるひとは各ユニットに一人はいるが、朝から声掛けし気分良く楽しんで入浴している。入浴剤や季節湯は行っていない、暖簾で風呂場の雰囲気を作り、見守りや介助職員との会話や、本音を傾聴している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣に応じた個々の就寝時刻を把握し、昼夜逆転しないように努めている。安眠できるように居室の空調等に配慮するように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療、訪問看護、薬局と連携をとっており、必要に応じて相談、助言等をいただける体制を整えている。服薬内容の変更、追加のあった際には入居者様の様態を注視し、様子を観察し、病状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様、知人の方に協力を得ながら入居者様個々の生活歴や嗜好品、楽しみ等を尋ね、入居者様の趣味や楽しむ時間をもてるに支援している。家族様に協力を得て嗜好品を持って来ていただいたり、面会に来ていただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される入居者様には職員が見守り、又、家族様の協力も得て外出できるように支援している。	日常的には外気浴・日光浴をベランダで行い、天候の良い時は事業所前の花畑を見たり、花の水やりをしている。感染状況をみながら家族・職員・利用者の3人でローソンなどに買い物に行ったり、梅の花を観に散歩に出かけている。近くの長居公園にも出かける予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望の入居者様は、職員の見守りの中、なるべく入居者様が支払いができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話を使用したい時には、随時電話を使用していただき、又、手紙を書かれる入居者様にはサポートするように支援している。家族様、関係者さまからの電話は必ずお繋ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	起床の時間帯にはカーテンを開け、窓から朝日が感じられるように配慮し、フロアの壁には本日の月日がわかる大きな日付と、季節を感じられるような壁飾りを入居者様と共に作製するように努めている。又、トイレ周辺は不快感がないよう、随時、入居者様の力も借りて清掃するように努めている。	リビングルームにはチューリップ・菜の花・桜の花の壁絵を飾り、鯉のぼりも手作りし季節感があり、本棚もある。感染予防に空気清浄機・換気・テーブル・ドア・手すりなど定期的に清掃し、手・指のアルコール消毒を行っている。食事前に10分～15分かけ利用者の皆で大きな声で口腔体操しているの観られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様個々の好みや居心地の良い場所を把握し、その日、その時の気分を察して過ごされる場所を工夫するように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の希望を第一に考え、家族様の要望等と相談しながら、馴染みの物、使い慣れた物を持ってきていただき、居心地の良い居室になるように配慮している。	各部屋に表札がある。各ユニットに畳室が3部屋ありエアコン・カーテン・介護用ベッド・洗面所が設備され、自宅から馴染みの筆筒やテレビ・ギター持ち込みキティのぬいぐるみ家族写真・行事写真・仏壇などそれぞれ自分好みにレイアウトし、自分らしく暮らす工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は入居者様個々の「できること」「わかること」を把握し、入居者様個々の思いを尊重し、自立支援に向けて実践している。又、フロア内は自由に過ごせるように導線の安全には常に気を配っている。		